

家族への報告と協力のお願い

2026年1月

美那へ、そして私の両親へ

これまで、自分がやろうとしていることについて、断片的に話してきました。ただ、全体像をきちんと整理して伝える機会を作れていませんでした。なぜそれをやるのか、どこへ向かおうとしているのか、そして今どういう状況にあるのか。

この手紙で、改めて整理して共有します。

1. SoulCarrier とは何か

【ミッション】

「存在証明の民主化」。これが私のミッションです。

世の中には、忘れられていく人がいます。墓石（ぼせき）に「無名氏」と刻まれて眠る人。移民として海を渡り、誰にも見届けられずに亡くなった人。災害で家族ごと失われ、名前を呼ぶ人がいなくなった人。

私は、そういう人たちの名前と物語を取り戻す活動をしています。クオーツガラスに情報を刻み、千年単位で保存する技術を使って。誰もが等しく記憶される権利を持つ。その思想を、技術で形にしています。

【原点と技術開発】

原点は Pearl です。私が 2007 年から一緒に暮らし、美那と結婚してからは家族で最期を見届けた愛犬です。Pearl の喉仏（のどぼとけ）を四つ葉のクローバーと共に貝殻に封入（ふうにゅう）し、「移動できるお墓」を作りました。あの経験が、私たちに存在証明の意味を教えてくれました。そこから技術開発が始まりました。あらゆる造形・刻印技術を試しました。主要な全素材、全刻印技術。3000 回を超える刻印実証の繰り返しを経て、クオーツガラスに音声バイナリーデータを QR として刻印し、読み取りに成功しました。地域の弁理士（べんりし）から、国際特許出願可能な技術であるとの回答をいただいています。特にバイナリーデータ圧縮技術は従来の最大 10 倍の圧縮が可能となる技術を含み、現代の通信コストの大幅な削減効果が期待できるなど、弁理士から期待いただいていることは父も認識の通りです。この研究の中で、石鹼にたどり着きました。子どもにも安全

で、再現性が高く、誰でも作れる造形物。技術研究を経た結論として、活動に取り入れています。

【個人的な動機】

そしてもう一つ、個人的な動機があります。

私たち夫婦は、両家のお墓には入らない次男次女です。両家からは、いずれ忘れ去られる運命にあります。

兄は祖母の加護を受けながら、潤沢な教育資金のもとで私立の教育を受けました。私は経済的な理由で、学費が合計100万円と最安な国立高専を推奨され、従ってきました。この家庭には居場所がないと幼いながらに感じ、いかに早く一人暮らしをするかだけを考えて過ごしていました。こういったことが幾度となく積み重なり、なぜ生まれてきたのか、なぜ産んだのか、産まれるべきだったのか、という葛藤（かとう）を抱えながら今に至っています。

デロイトに雇用され、世界、日本を代表する社会的立場を得て、家庭を持ち、孫ができ、戸建てを構えたことを受けて、一定の成功、幸福を得たと判断したのか、孫に対して祖母祖父の面をされるのが、存在を否定され続けてきた人間として吐き気がするほどの絶望を感じ続けています。祖父母どちらも、よく何食わぬ顔で家に上がるなどと思い続けています。一方的に資金援助したから許されるといった性質の心の傷ではないことを明確にしておきます。

父は東京都職員という地方公務員でした。実家の岩手から関東に来て大変だったと思います。よくやった方だと思います。ただ、これは個人的見解ですが、総じて子どもを2人目授かるべきではなかったと私は思っています。

私の母子手帳には、出生時刻が記載されていません。出生時刻がわからないことで正確な占いもできない、私のアイデンティティが確立できない要因の一つになってきました。私の父は今なお、私の名前を呼ぶとき、最初に兄の名前を呼んでから「間違えた」と言って訂正します。幼少期からずっとそうで、最後まで直りませんでした。

私はこの経験が幼少期からトラウマになり、人の顔と名前を覚えることができなくなりました。ずいぶん支障のある経験をしてきました。渋谷のベンチャー企業ウィルゲートで取

締役最高技術責任者として経営をしていた当時、組織拡大の局面で顔が覚えられないことをもって経営者の資質が問われたこともあります。人のことを名前で呼ぶことにも、抵抗と葛藤を抱え続けるようになりました。妻に対しても「美那さん」と言えないことを自覚しています。これはトラウマによる影響だと自負しています。妻は「私はママである前に1人の人間である」と私に訴えてきていて、申し訳ないと思い続けています。

そして今、同じことが娘のいとにも起きています。私の父は、いとの名前を呼ぶとき、兄の娘の名前を先に呼んでから訂正します。一度や二度ではありません。直接会うたびには毎回です。見ていて心が痛んでなりません。世代を超えて、同じパターンが繰り返されています。

存在証明の民主化。このテーマは、私にとって他人事ではありません。兄の妻の一回忌（いっかいき）がマウイ渡航前にありました。培った技術で玄武岩（げんぶがん）に家紋を刻印して渡しました。私の名前を間違え続ける家族構造の中で、それでも技術を贈り物として届けることを選びました。

【Martin Case】

今、最初の案件「Martin Case」が進行中です。マウイ在住の日系アメリカ人 Martin の母・岩下照子（いわしたてるこ）さんの遺灰（いはい）を、群馬県の故郷へ届ける調査をしています。防寒具を現地で調達しながら4日に渡る車中泊を通じて、親族住所の周辺寺院8ヶ所、公営墓地3ヶ所、合計5000基を越える墓石（ぼせき）を1人でこの足で歩いてくまなく該当する苗字（みょうじ）と家紋（かもん）を探し、複数の行政窓口と連絡を取り合ったことで、親族との連絡経路を見出すことができました。Martin は「Thank you Takuya. You are a gentleman and a scholar.」と言ってくださいました。Martin からのご好意で、クリスマス間近にコンドミニアムの宿泊をご提供いただきました。これはラハイナの大規模火災で唯一焼け残った教会の経費として計上され、署名もしてきました。Martin はマウイ島で遺骨（いこつ）、書類、委任状を直接渡したいと希望しており、渡航費の捻出（ねんしゅつ）に課題があることから手配出来次第受け取りに行くと伝えています。納骨（のうこつ）まで今年中に完結することを目指します。

【広がるネットワーク】

マウイ島では東の端から西の端まで、寺院や農場に向けた太陽光発電パネルやバッテリー、衛星通信設備を含むオフグリッド構築強化支援を、Workaway を通じてご縁をいただいたホストの方へ提供しました。Workaway はスキルと滞在場所を交換するプラットフォーム

で、現在 50,000 人のゲストが活動しており、日本では全国 150 ヶ所を越えるホストが登録しています。西の端にあたるハナファームのホスト、メラニーさんからは「いつでも使って良い」とパビリオン施設を無償で割り当ててくださり、滞在場所としていつでも使える状態にあります。

ギフトエコノミーの実践として、マウイ島のハロウィンイベントで手作り石鹼を 20 個以上配り喜ばれました。その他各地で配り、累計 100 個を超える配布をしてきました。娘と一緒に作り配り、水族館のレストランで娘が手渡した石鹼で 5 ドルをいただき、娘は自らその 5 ドルで母へのお土産を買ってプレゼントしました。ビジネスの本質を娘と一緒に体験するという教育にもつながりました。大手リゾート施設からは無料でプールを含む施設内設備の利用を許諾いただいたり、シャワーが使えるホスピタリティルームをいつでも使って良いとご提供いただいたりと、ボランティア活動の地域貢献を認めてくださる結果となりました。

帰国後、私たちの婚姻届の証人である上田さんから SoulCarrier 共鳴の会との最初の相互協力合意書（MOU）に署名をいただきました。上田さんは三重県の公式 SDGs パートナーとして登録されている NPO 法人伊賀の友の代表をされており、障害者とともにその地で健康寿命（けんこうじゅみょう）をまっとうするという使命のもとで、バナナ園を運営されたりと、地元のケーブルテレビでも紹介される取り組みを展開されています。上田さんは 2025 年 8 月 28 日、旦那さんが奥様の目の前で心肺停止となり、ご本人自ら三途の川を見てきたと語ってくださいました。移植手術を経て週に一度のリハビリをされているそうで、奥様は「目の前で目が動いていることがもう奇跡、存在しているだけありがたい」と語ってくださいり、署名捺印いただきました。

上田さんは地域の連携も深く、引きこもり世帯や空き家がたくさんあり解決したいとのことで、Workaway の導入がその糸口になるという見解で一致しています。マウイでの活動実績の紹介を経て、Workaway の導入利活用を支援させていただいています。上田さんへの支援は三重での初めての導入実績となり、上田さんも前向きに喜んでくださっています。SDGs パートナーは行政により登録業者が公開されているため、上田さんへの支援をかわきりに全国各地での導入利活用支援を手掛けていきます。

上田さんからは移民の納骨（のうこつ）の相談は宗教宗派の大元からかけあうのがよいの

ではないかと提案いただき、高野山（こうやさん）の真言宗総本山（しんごんしゅうそうほんざん）のご住職を直接ご紹介いただけるとのことで調整が進んでいます。

山口県の日本ハワイ移民資料館の館長からは協力合意書に署名捺印をいただいたおり、私的な活動から公の活動に発展しています。日本ハワイ移民資料館とは Martin ケースをきっかけに、様々な日系移民の方のご要望に応じて全国各地で調査代行する心づもりであることを伝えてあり、「ちょうど求めていたので助かる」とお声がけいただいています。

広島の仁保島（にほしま）ハワイ移民資料館からは、学術目的で卒業証書、労働契約書、集合写真などを現地の日系移民から収集してきて欲しいと具体的に要望いただいています。仁保島（にほしま）資料館は JICA や国立国会図書館に蔵書（ぞうしょ）されていましたり、義務教育の教科書に写真付きで紹介されていましたりする資料館で、個人で運営しながらも国家への貢献度が高い資料館として知られています。仁保島（にほしま）の館長からは「今ならまだ間に合う」という言葉をいただいており、取り組みの緊急性について見解が一致しています。

日本で唯一のハワイ姉妹都市である渋谷区の担当課とも連携しており、「ぜひマウイの話を聞きたい」とご要望いただいています。JICA 横浜の次長からは、ハワイに関しては途上国ではないので経済支援ではなく学術調査の観点であれば企画を提案ベースで進めいくことができるとお話しいただいています。

【投資と覚悟】

この活動には、クレジットカードやキャッシングを含む与信枠を全部投入して、私財 2000 万円以上を投資しています。活動費は毎月 200 万円規模です。この取り組みの性質上デロイトの雇用契約の範囲外との人事からの返答を受けて雇用契約を解消し、収入がない状況で活動を続けてきました。趣味や思いつきではありません。X での投稿は 31 万インプレッションを超え、社会的な反響も得ています。

SoulCarrier 共鳴の会として、会員制度も立ち上げています。正会員（年 3 千円）、終身会員（9 万円）、贊助（さんじょ）会員（1 口 1.5 万円）。組織として動き始めています。

【千年事業への共鳴】

時を越える事業への共鳴の体現として、比叡山延暦寺（ひえいざんえんりやくじ）の国宝根本中堂（こんぽんちゅうどう）大改修に寄付し、伊勢神宮の式年遷宮（しきねんせんぐう）にも奉賛金（ほうさんきん）を納めています。御垣内参拝（みかきうちさんぱい）の

参宮章（さんぐうしょう）を個人として授与されています。いずれの寄付もタイムレスタウンの現住所を記載しています。

今、活動を止めることは公益の損失に値します。取り組みを緩めることも止めるとも、選択肢がないことをここで明確にしておきます。

2. タイムレスタウンで試みること

【なぜこの街を選んだか】

タイムレスタウン新浦安。スターツ創業者・村石久二（むらいしひさつぐ）氏が「永遠」「ゆりかごから墓場まで」という思想を込めて作った街です。

私がこの場所を選んだのは、その思想が自分のやろうとしていることと重なると思ったからです。存在証明の民主化と、時間を超えて人の存在を包み込む器という発想。共鳴できるはずだと。創業者自身がこの街に住んでいること自体が、理念の表明だと受け取っています。

【自治会で起きたこと】

自治会 DX を掲げて、前任者の倉知（くらち）元自治会長からの推薦のもとで自治会長になりました。2年目になります。倉知（くらち）さんには推薦いただいたこと、引き継ぎに尽力いただいたことに感謝しています。

しかし蓋を開けてみると、私が自治会 DX の施策として導入した LINE Works を、倉知（くらち）さんが政治活動に流用しました。グループ内に選挙応援イベントへの参加を呼びかける投稿をしたのです。

年に一度の浦安市への自治会からの意見招集についても、前任会長の指示が入りました。初年度は右も左もわからなかったため従いましたが、名前だけの自治会長を感じて、前任会長の政治利用の懸念を強めるきっかけになりました。

私は自治会規約を確認し、明確な規約違反であることを確認しました。指摘する意向を家族に相談したところ、美那から反対を受けて静観（せいかん）しました。住民も困惑する中、反応できずに困惑した雰囲気になり、以降、自治会 DX の推進を含め一切の積極的な活動を自粛（じしゅく）しました。倉知（くらち）さんを攻めるつもりも咎（とが）めるつもりも今はありません。市から功労者推薦枠（こうろうしゃすいせんわく）があり、私から倉知（くらち）さんに推薦の条件を満たしているが推薦しますかと意向を確認した

ところ、真意は不明ですが辞退されました。ただ、何が起きたかを正確に記録しておきたいのです。

美那は私の変容に困惑して、イベント企画などでフォローしてくれました。今年は企画に携わってくださった有志（ゆうし）の方々、美那の働きかけもあり、マンションの理事会への働きかけを通じてハロウィンイベントをはじめて戸建てとマンション一体のイベントにすることができました。私の活動自粛（じしゅく）を美那が支え、住民親睦（しんぼく）は続けることができました。しかし私から明確に説明することを控えたため、美那から見れば不誠実に映り、家庭不和の原因の一つにつながりました。

また、行政（地域振興課）から、自治会内のイベント日程を連絡し市長を招待することが推奨されていました。初回は招待しましたが、反響の賛否が分かれました。年に一度の新年会なども含めて、市長選の間接応援、地盤確保につながっているという解釈に至り、2年目は招待することを控えました。

これらを踏まえ、定例会をやめ、総会の実施もやめました。現在、行政から補助金の返還を求められつつある状況です。行政が円滑な地域連携を意図していることは理解しています。整理がついたら、自治会活動は再開する予定です。

【石鹼配布の意味】

270個の手作り石鹼を全戸に配る準備をしてきました。「いてくれてありがとう」というメッセージとQRコードを添えて。村石氏のご自宅にも届きます。石鹼と一緒に、この手紙も添えます。この取り組み自体が、自治会DXの答えだと確信しています。前任会長による政治利用を目の当たりにしたからこそ、自治会の本来あるべき姿を行動で示します。この街に、共鳴する素地があるかどうかを確かめるために。

「タイムレス」という言葉が、ブランド名で終わるのか、本当に時間を超えて何かを残す場所になるのか。その試金石（しきんせき）です。

今週末、石鹼を作ります。家族で見届けてもらえたなら嬉しいです。そして来週、配ります。

3. 現実：3月のデッドライン

ここからは、改めてきちんと伝えておきたいことです。

この住居で活動を継続する判断基準を決めました。以下の条件が3月末までに成立することを目安にしています。

- ・債務の全額解消（PayPay 1000万円、三井住友 300万円、アメックス 300万円、その他キャッシング 200万円、親からの援助 600万円、計 2400万円）
- ・ローン返済義務の解消（残債（ざんさい） 約 1.1 億円）
- ・資金・物資両面での継続活動支援の獲得（活動費月 200万円規模、マーケティング残 500万円）

これが成立しなければ、タイムレスタウンの物件を3月中に売却し、引っ越しします。この街が「永遠」を語るだけの場所なのか、本当に「永遠」を作る場所になれるのか。それはやってみないとわかりません。

売却した場合、概ね3000万円程度の売却益が出ることも把握しています。新居の頭金、当面の負債の支払い、援助金の返済に充当します。

270個の石鹼配布は、その判断材料を集めるための最終アクションです。この街から支援が得られるのか、得られないのか。

4. 次の道：佐渡

理念を掲げるだけの場所なのか、理念を体現する場所になれるのか。その答えが出た後の話です。

タイムレスタウンを離れる場合、次の拠点は佐渡島を考えています。マウイ島に地形が似ていて、以前から注目していました。

佐渡には、世界遺産に登録された金山があります。そこで働いた鉱夫（こうふ）たちの中には、名前が記録されずに亡くなった人も多くいます。流刑地（るけいち）としての歴史もあり、忘れられた存在が眠る場所です。

SoulCarrierの活動にとって、これ以上ない拠点になります。古民家を探して転居先を決めます。マウイ島を含む海外で年の半分を過ごす暮らしは、継続する前提です。

「佐藤が渡る」。この言葉遊びが、私の次の章を開くことになるかもしれません。

5. 私の両親へ

私の両親へ。これまでの600万円の支援に、心から感謝しています。その援助がなければ、ここまで来れませんでした。育ててもらったことへの感謝も、変わりません。

だからこそ、これからは自分の力でやっていきます。

同時に、はっきり伝えなければならないことがあります。

去年、マウイ島に行く前に伝えました。助言も支援も不要です、見守るだけにしてくださいと。

それでも、私の所有する物件の売却査定を、所有者である私に無断で出すという事態が起きました。境界線を越えています。購入候補者が周辺をうろつく事態になっていることも把握しています。

そのうろつく様子に、美那は不安で安心して暮らせない事態となっています。近所の目もあり、娘にも影響しています。

600万円が贈与（ぞうよ）なのか援助なのか借入なのかはわかりませんが、頼んだことも書面を交わしたこと也没有。債務超過（さいむちょうか）は遅延損害金（ちえんそんがいきん）が発生しますが違法ではありません。しかし、所有者でない物件の売却査定を勝手に実行して家庭生活を不安定にさせることは、法的にも問題がある行為です。助けたい気持ちは理解できます。しかし前言通り、一連の行為は越境（えっきょう）です。

過去を咎（とが）めるつもりはありません。ただ、このような介入はこれで最後にしてください。

今後、経済的な支援は求めません。3月までに、自分の判断で、自分のタイミングで決着をつけます。売却という結果になる可能性も十分にあります。しかしそれは、私が決めることです。

600万円を含む、過去累積して私たち家族へ投じてきた金額は、計画を立てて全額お返します。富士通、デロイトトーマツコンサルティングでの技術キャリアがあり、退職の際にパートナーから業務委託で案件支援を相談いただいており、大正製薬を含む複数の案件を個人で支援予定です。老後の生活不安の中で支援してきた気持ちには、感謝しています。形で返すので、安心してください。

佐渡という選択肢には、物理的な距離を保つ意味もあります。娘が名前を間違えられて尊厳を傷つけられることを防ぐためです。私のようなトラウマは、私の代で断（た）ち切れます。

6. 美那へ

3月という期限のこと、佐渡という選択肢のこと、きちんと話せていました。申し訳なく思っています。

購入候補者がうろつくことで、不安な思いをさせていることもわかっています。一人で考え込んでしまっていました。

今週末の石鹼作り、できる範囲で見守ってほしい。手を動かさなくてもいい。いとも一緒に、三世代で顔を出してくれるだけで十分です。

この配布の結果は、娘にとっても人生単位で影響します。共鳴が起こって、名実共に存在が証明される場になるのか否か。

インターナショナルスクールには通わせたいし、習い事も続けたい。でも、この取り組みの結果によっては、地に足をつけるべき場所なのかがわかります。そこから見極めたいと思っています。

佐渡に移るとしても、古民家での暮らし、マウイとの二拠点生活、新しい環境での娘の成長。奪われるのではなく、新しい可能性が開けると思っています。

この街に残るにしても、佐渡へ渡るにしても、家族で一緒に見届けたいと思っています。

7. 家族に求めるこ

お金ではありません。

理解と、協力と、見守りです。

美那といとへ。今週末の石鹼作り、できる範囲で見守ってほしい。顔を出してくれるだけでいい。

私の両親へ。これ以上の介入をやめてほしい。見守ってほしい。

私がやろうとしていることが何なのか。なぜそれをやるのか。どこへ向かおうとしているのか。

この手紙で、少しでも伝わったなら幸いです。

どちらに転んでも、道はあります。その道を、家族と一緒に歩きたいと思っています。

どちらに転んでも、私たちは大丈夫です。

* * *

この手紙を読みました。

この手紙は、クオーツガラスに刻印し、1000年保存します。

卓也（本人） _____

美那（妻） _____

糸（娘） _____

千賀夫（父） _____

妙子（母） _____

佐藤卓也

2026年1月24日追記：600万円が今は700万円を超えていると母が指摘し、父が内容が正しくないのでサインはしないと回答した。父母からの署名は得られなかった。なお、この署名は内容の正誤を問うものではなく、読んだことを確認するものであった。

この結果を受けて、存在証明の民主化が必要であり、「いてくれてありがとう」という存在の祝福表明の大切さを強めるに至った。

話にならないので、共鳴が得られるまで父母との会話は形式問わず自粛することとする。

【振り返って思い出したこと】

小学校の宿題で、自分の名前の由来を親に聞いて授業で発表する機会があった。両親に聞いたところ、「覚えていない」と。兄の名前の由来は覚えているが、卓也の名前の由来は説明できないと回答された。授業で「知らないと言われました」と発表した。絶望だった。

本当のトラウマは、振り返った時に心の傷が深すぎてすぐには思い出せず、ふとフラッシュバックして鮮明に映像が頭に浮かぶ。

【2026年1月24日の経緯補足と考察】

妻は自らの立場を脇に置き、言いづらい葛藤を抱えながら、両親に「息子に謝ったことはありますか？」と尋ねたところ、「ない」との回答。「謝ったらどうですか？ 金額の差異ではなく、息子さんは傷ついているということを伝えているんですよ」と伝えたところ、父は「謝る必要はないし、謝るつもりもない」と回答した。

また父は、海外にいる時に支払いが滞ると電気が止まり住めなくなるから支払ってあげてきたんだと発言した。その本人が売却査定を勝手にするのは自己矛盾ではないかと疑問が残った。投資家とでも思っていたのだろうかと勘織ってしまう。

私にとっては、私の教育コストを自粛し孫の教育機会に当てた、合計金額から換算して兄に割り当てた教育費用より安いだろうから世代を超えた教育費用と捉えることもできるのではないかという思いもある。娘は国際的な現地での交流を深め、帰国後は日本と米国の違いについて語るようになった。国際的な場面でギフトエコノミーの実践体験は、生涯単位でかけがえのない教訓につながっているはずだ。

老後の生活資金が危ういからという理由で、いかに回収するかという視点から逃れられずに自らの振る舞いを客観視できなくなっているように見受けられるのがまた痛々しい。

母は個別に「ごめんね」と私に伝えてきたが、何に対する謝罪なのかがわからない。そもそも謝罪してほしいとは書いていない。母は妻から「謝罪した方が良い」という言葉を受けての行為だったのだろうが、中身と気持ちを結局見ていない、見えていないのだという思いを強める出来事となった。

【本手紙の共有について】

この手紙は、タイムレスタウン全270戸に配布する石鹼のQRコードから読めるようとする。

私が存在した証として。

娘に「いてくれてありがとう」を届けるため。

この街が「存在を祝福する場所」であると示すため。

父へ、母へ。

この街に来るということは、実の子孫の名前を間違え続け、存在を軽視した祖父母として、270戸への配布を通じて、全年代1000人規模の視線の中を歩くということです。

それでも来るかどうかは、そちらの判断です。

共鳴が生まれる日を、待っています。